

TOSHIN STUDY New49

東神油槽船株式会社 平成25年3月26日 B/Y安全管理室

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-5-14 入江ビル7階

TEL03-3270-3033 ・ FAX03-3241-2812

今回の東神スタディは「**反復学習の重要性**」について別の視点から見てみましょう。

これは私個人の勝手な理論です（もしかしたら一般的なものかもしれませんが）が、新しい仕事の習得には①新しいものを自分の中に取り込む②取り込んだものを洗練させていく③自分なりのオリジナリティを加える

という段階を経ているような気がします。それぞれについて、少し今回は見ていきたいと思えます。

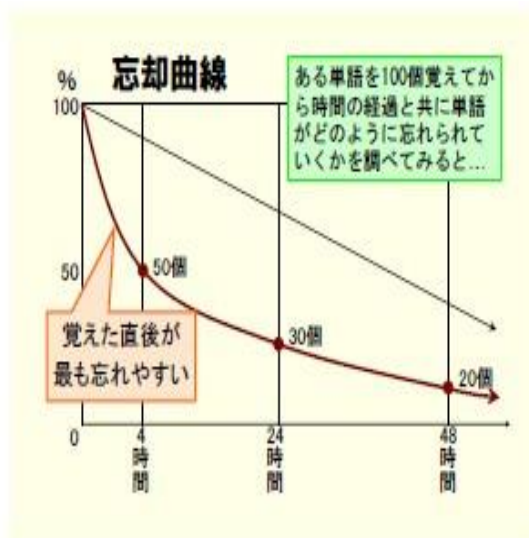
1. 新しいものを自分の中に取り込む

新しい仕事、新しい勉強、新しい資格等何でも構いません。今までやったことのないものに手を出す場合には、みなさんはどうするでしょうか？基本的には、①上司や先輩、同僚等経験者に教えてもらう②教科書等教材から知識を得る③養成施設で勉強する 等が真っ先に頭に浮かぶのではないのでしょうか？

私なんかは、頭の老化が始まっているため、教えていただいたことや学習したことすべてを一度に頭に叩き込むことはできません（頭の老化のせいにしてるだけかもしれませんが）。それどころか、覚えた気になっていてもしばらくすると、ど忘れしていることがよくあります。

このことを、理論的に説明した人がいます。ヘルマン・エビングハウスという心理学者（名前を忘れてたので、今ネットで調べました。便利なものね）です。個人差や覚える対象の物によって程度の差はあるものの、**人は時間がたつとどんどん記憶したものを忘れてしまう**、というものです。それを図にしたものが、右の「忘却曲線」というものです。

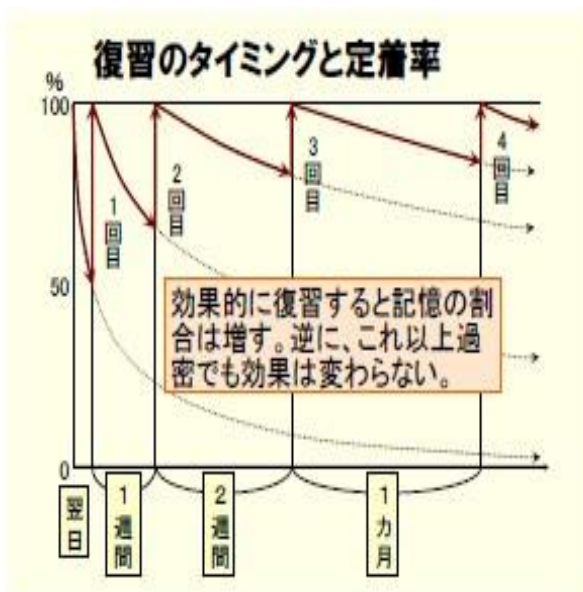
その曖昧になった部分を、何度も反復（復習）することによって自分の中に確実に蓄えることが大切だとこの理論では



言われています。当然、人間ですから一部は再び忘れてしまいますが、1回も反復しないより記憶に残っているものが多い、というのがこの理論です。

みなさんも新しい仕事を覚えるときに、教えてもらったことの一部があやふやになって、悩む時がないでしょうか？なるべく箇条書きでも構いませんからメモをとる等して後から記憶を呼び戻せるようにしておくことが大切だと思います。このメモが実は非常に重要な役割を果たします。

実は、今、忘却曲線の理論を説明しましたが、記憶に関する理論はこれだけではありません。例えば記憶の連鎖、というものがあります。例えば、何年かぶりに地元に戻ったとします。昔懐かしい風景を見た途端、走馬灯のように昔の思い出が甦ることを経験されたことはありませんか？これは記憶の関連付けと言われるもので、記憶というのは単独で存在するものではなく、チェーンのようにつながっていて、ひとつの思い出をきっかけにズルズルと記憶が引き出されるものです。ですから、思い出すきっかけとしてもメモはとても重要な役割になってきます。ですから、可能な限りメモを取ることとおすすめします。



2. 取り込んだものを洗練させる

教えてもらったこと、学習したことを自分の中で完全に消化した次の段階として、「スマートに仕事をこなす」という段階があります。効率よく仕事をするには必要なことですが、大事なことは、「効率を優先するあまり、基本を無視してはいけない」ということです。

以前、東海村で放射性物質の臨界事故がありました。事故を起こしたのは放射性物質を長い間専門に扱ってきた業者でした。その業者が作業の簡素化のために、常識では考えられない手順を行って事故を起こしています。

作業をする側としては、面倒な手順であっても、安全上必要な手順というのがあり、それは必要不可欠なルールです。作業の中にいると、目の前の作業にだけ意識が集中し、効率化を求めればばかりに、全体像が見えなくなることがあります。常に全体の流れ、要所所のポイントをしっかり押さえながら、スマートに仕事をこなすことができるようになるのは、この段階だと思います。

3. 自分なりのオリジナリティを加える

仕事をスムーズにこなすことができるようになれば、その仕事の内容をさらに充実させるために、自分の意見を取り入れて仕事の密度を 1 段階レベルアップできることになると思います。場合によっては、この段階では仕事の手順を変更することも必要かもしれません。その際には、今までの仕事のやり方の問題点等をきちんと説明し、新しい方のメリット等を判りやすく説明することが必要となってきます。

また、スタッフを抱えての作業の場合には、混乱を招かないようにきちんと、目的も含めて説明することが大切になってきます。

大変な労力ですが、成功した時の充実度は結構あるものです。

編集後記

こませ、いかなご、春のさわら流しの時期がやってきました。こませに関しては以前と比べ、AIS の搭載が進んだりして通航船からの識別が容易になってきてるとはいえ、夜間にかけての漁もあるので、通航する際には十分注意してください。また、大漁だったときに、過去に網を航路内に放置したまま漁獲物を港まで運んでいたこませ漁船もあったので、注意してください。

また、この時期に居眠り海難も絶えません。起こすのは、漁船が多い海域ではなく、ここを通過した後の、「気の緩む」海域です。当社の船は、2 名当直なので居眠り海難の可能性は低いと思いますが、緊張感を解きすぎて、見張りまでおろそかにならないよう、引き続き安全運航をよろしく願いいたします。

(完)